

令和3年度 さいたま市立さくら草特別支援学校 自己評価書

校長 石橋 慎一郎



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 児童生徒一人ひとりの実態に対応した、卒業後を見据えた教育課程を編成し実施する。

—学校の教育目標の具現化を図る教育課程の編成と実施

(2) 児童生徒の状態やニーズの的確な把握に基づいた個別の指導計画を作成し、長期的な視野に立ち、繰り返し粘り強く継続的な指導とその評価の充実を図る。

—児童生徒一人ひとりの障害の状態等に応じた指導の充実及び工夫改善

(3) 個に応じた将来の望ましい社会参加を目指し、学校間や地域社会との交流及び共同学習及び地域学校協働活動を積極的に推進する。 —交流及び共同学習の推進と地域との連携

(4) 医療的ケア対象の児童生徒の増加、対象医療的ケアの拡大等に対応するため、医療的ケア主任・副主任体制の確立と医療的ケア補助のスキル及び体制の充実を図る。

—安全な医療的ケアの実施

(5) 学校運営協議会準備委員会を定期的に開催し、本校の教育、医療、進路等の課題を踏まえた熟議を行う。 —コミュニティ・スクール運営に向けた取組の推進

(6) ICT活用の研究を推進し、児童生徒の表現・コミュニケーションツールとして、また訪問教育、家庭訪問、遠隔教育など、家庭等との連携について可能性を追求する。

—GIGAスクール構想の具現化

2 評価結果について

・「子ども達は学校へ行くことを楽しいと感じている」「子ども達は学校生活を通して経験や人との関わりを広げている」の項目において、保護者回答の得点平均が両項目とも3.91(4.0満点)となっている。

・「児童生徒一人ひとりに応じた適切な個別の指導計画を作成している。」の項目で、教職員からは100%、保護者からは96%超の肯定的な回答が得ることができた。学校の教育目標の具現化を図る教育課程の編成と実施について、個別最適な学びの充実を目指して大幅な見直しを行ったことの成果と考えられる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

・GIGAスクール構想の具現化を目指した実践に引き続き取り組み、学校行事、学習指導、遠隔教育、他の学校や地域との交流など、ICT機器等の積極的活用により、今後の教育活動の可能性を広げられるようにする。

・一人ひとりの実態に応じた指導方法の工夫、教材・教具の適切な活用等の積み重ねにより、児童生徒一人ひとりが自己のもてる力を発揮し、学校生活がより充実したものになるようにする。

・教育、医療、福祉等の関係機関や地域と連携し、コミュニティ・スクールの運営を確立する。